

記載例: 都道府県

調書(1) 都道府県

(様式3の1)

令和6年11月1日 現在

都道府県番号	0	推薦都道府県名	職業部門番号	5	職種名(1)	職種名(2)	氏名・現就業先事業所名の外字
		〇〇県			電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	例: 「藤」は草冠が「十」のように離れた字、「刃」は「刃」のように突き出る字、「◎」の字は「○」の字の偏が〜となった字(フォント「△△」で表示可能)等

推薦都道府県名欄、都道府県番号欄
プルダウンから推薦都道府県名を選択すること。
選択した都道府県に対応する番号が自動で都道府県番号欄に挿入される。

職業部門番号欄、職種名(1)(2)欄
「実施要領 別表」第1部門～第21部門を参考に職種を記入する。(P6参照)

氏名・現就業先事業所名の外字欄
被推薦者の氏名・現就業先事業所名に変換できない文字または特定のフォントでしか表示できない文字がある場合、必ずここに記載する。

ふりがな	ぎのう しゅういち	性別	男
氏名	技能 秀一		
生年月日	昭和31年12月10日	年齢	67
現住所			
〒 000-0000			
都道府県	〇〇県		
市区町村	〇〇市〇〇町〇丁目〇-〇		
	〇〇マンション〇〇号室		
TEL 000-000-0000			

氏名・ふりがな・性別欄

住民票に記載されている字画で氏名を記入し、ふりがなを付け、名字と名前の間に**全角スペースを1つ挿入**する。
性別欄は住民票に記載されている性別をプルダウンから選択する。

生年月日・年齢欄

生年月日を入力すると和暦に変換される。
入力は和暦の場合「年号(昭和、平成、令和) yy年mm月dd日」、「年号(S,H,R) yy.mm.dd」(ドット区切り)または「年号(S,H,R) yy/mm/dd」(スラッシュ区切り)、西暦の場合「yyyy/mm/dd」(スラッシュ区切り)のように入力すること。
「年齢」欄は生年月日を正しく入力すると自動で挿入される。
○「S15.10.9」「S15/6/23」「1943/2/25」「昭和39年12月13日」
×「1940.7.7」「1942.6/18」「昭15年10月24日」→エラーとなる

現住所欄

被推薦者の現住所および電話番号を省略等せずに記入する。
住民票の住所と実際に居住している居所が異なる場合は、居所を記入する。

職歴欄

就業先事業所の名称、職務内容、地位及び役職等を順番に記入すること。団体歴、公職歴、家業手伝い、学生時代のアルバイト、推薦を受ける技能と関係の無い職種に従事していた期間は記入しない。ただし、いわゆる企業内学校において、推薦を受ける技能と直接関係がある職種の訓練を受けた期間は職歴となる。
現役の職歴は最後に「として現在に至る」と記入する。

職歴	在職期間(年月日)	在職年月数
△△電機(株) 第二製造部〇〇課に電機工として就職	S49. 4. 1 ~ S51. 3. 31	2年0月
〇〇電機(株) 〇〇工場 第一製造部〇〇課に電子機器組立工として就職	S51. 4. 1 ~ H3. 3. 15	14年11月
同 主任	H3. 3. 16 ~ H11. 9. 30	8年6月
同 〇〇長	H11. 10. 1 ~ H26. 3. 31	14年6月
同 〇長として現在に至る	H26. 4. 1 ~ R6. 11. 1	10年7月
	~	

事業所全体の従業員数欄

被推薦者も含めた人数を半角数字で入力する。就業者が被推薦者のみの場合は、0ではなく1を入力する。

在職期間(年月日)・在職年月数欄

上記「生年月日」欄と同様に在職期間を正しく入力すると和暦に変換され、「在職年月数」欄に在職年月数が自動で入力される。

就業先	
事業所名①	〇〇電機 株式会社
事業所名②	〇〇工場
事業所全体の従業員数	120人
所在地	
〒 000-0000	
都道府県	〇〇県
市区町村	〇〇市〇〇町〇〇-〇
TEL 000-000-0000 (内線****)	

就業先欄

事業所名①欄には、雇用事業所名を、自営の場合は屋号等を省略せず正確に記入する(法人格を省略したりしないこと)。
事業所名②欄には、拠点名があれば記載する。
(例: 「〇〇工場」「〇〇支店」「〇〇営業所」)
また「所在地」欄には、郵便番号、所在地及び電話番号を略さずに記入する。
令和6年11月1日以前に就業地が変更となることが推薦時に確定している場合は「(〇月〇日より変更予定)」と記載する。
なお、推薦後に就業地が変更となった場合は速やかに連絡する。

職期間 計	50年6月
職期間 計	50年6月

表彰歴	表彰の種類	表彰の概要	取得年月
	大臣表彰	第〇回〇〇技能競技全国大会（〇〇の部）〇〇大臣表省	H〇年〇月
	知事・行政機関の局長表彰	卓越技能者〇〇県知事表彰：〇〇に係る卓越技能について表彰	H〇年〇月
	全国レベルの業界団体表彰		
		優秀技能者〇〇市長表彰：〇〇に係る優秀技能について表彰 〇〇県職業能力開発協会会長表彰：技能検定の推進貢献について表彰	H〇年〇月 H〇年〇月

表彰歴欄

表彰を有する場合、表彰の概要及び取得年月を記入し、表彰を証する書面の写しを全て添付すること（技能に関連して被推薦者本人が表彰を受けたもののみ記入する）。

なお、技能に無関係な「感謝状」「永年勤続表彰状」等は記入しない。

表彰の種類は、上段より順に該当項目を記載。記載箇所を誤らないようにする。

- ・「〇〇大臣賞」の場合は大臣表彰。
- ・「〇〇マイスター（〇〇知事賞）」の場合は知事・行政機関の局長表彰。
- ・「一般社団法人〇〇協会会長賞」の場合は全国レベルの業界団体表彰。

免許・資格等

職業訓練指導員免許の取得歴・技能検定委員の委嘱歴・特許を有する者については、免許・資格等の概要と取得年月を記入し、免許等を証する書面の写しを全て添付する。

なお、推薦を受ける技能と直接関係がない技能に関するものは記入しない。

免許・資格等	免許・資格等の概要		取得年月
	職業訓練指導員免許	機械科	H〇年〇月
	技能検定委員	〇〇県技能検定委員（機械）	H〇年〇月
	特許	特許123456「〇〇用装置の考案」	H〇年〇月

大会入賞歴等欄

高度熟練技能者、ものづくりマイスター、全技連マイスターに該当する場合は、認定された年度（元号アルファベット+数字）、業種、職種を記入し、認定を証する書面の写しを全て添付する。

技能グランプリ入賞歴、技能五輪国際大会入賞歴、技能五輪全国大会入賞歴がある場合は、開催回、参加職種、順位を記入し、入賞を証する書面の写しを全て添付する。

技能検定欄

該当する場合は、技能士の名称（〇級〇〇技能士）と取得年月を記入し、技能士証の写しを全て添付する。級は一級、二級等のように漢数字で表記し、単一級の場合は「単一級〇〇技能士」と記入する。

大会入賞歴等	認定年度	業種	職種	技能検定	技能士の名称	取得年月	
	高度熟練技能者				一級電気機器組立技能士	H〇年〇月	
	ものづくりマイスター	H28	〇〇職種		一級制御盤組立技能士	H〇年〇月	
	全技連マイスター						
		開催回	参加職種		順位		
	技能グランプリ						
	技能五輪国際大会入賞歴	〇回	機械職種		〇位		
	技能五輪全国大会入賞歴						

記載例：都道府県

調書（２）都道府県

（様式３の１）

都道府県番号	都道府県名	職業部門	職種名（１）	職種名（２）	ふりがな	ぎのう しゅういち
0	〇〇県	5	電子応用機械器具組立工	電子計算機組立工	被推薦者氏名	技能 秀一

都道府県番号欄ほか調書１に記載したものが自動で反映。

過去５年の推薦回数欄

過去５年において被推薦者が卓越した技能者の表彰について厚生労働大臣に推薦された年度及び推薦合計回数を記入する。
なお、過去５年で初めて推薦される場合は計０回と記入する。

令和5年度	年度	推薦者及び推薦理由	令和5年度 令和3年度 年度 年度 年度 計 2 回 推薦順位等 選考対象者総数 36人 推薦総数 7人 推薦順位 1位	（所在地） 〒 〇〇〇 都道府県 〇〇県 市区町村 〇〇市 〇〇町〇-〇-〇 （推薦者氏名） 〇〇県知事 〇〇 〇〇 （推薦理由） 電子分野の試作品製作における「はんだ付け」を始め、試作品の完成されるまでに必要な電子回路技術、組付技能、計測・評価技能などの電子機器組立に関する技能に卓越している。その技能を活かして、宇宙産業機器や自動車用電子制御製品、ITS製品などの多くの試作を担当し、製品化まで導いた。また、幾多の改善による生産性及び品質の向上や、職場安全に寄与するとともに、多くの後進技能者の指導・育成に貢献した。以上のことから本被推薦者は、電子機器組立に関する優れた技能を伝承するなど、多くの実績があり、県1位として推薦する。
令和3年度	年度			
年度	年度			
年度	年度			
年度	年度			
計 2	回			

推薦者及び推薦理由欄

推薦者の所在地または住所、電話番号及びその推薦理由を記入する。推薦者氏名は、都道府県知事名とするが、空席時等やむをえない場合は職務代行者であることを明記し、職務代行者名を記入する。
都道府県知事推薦の1位の者に関しては、他の候補者と比較して最上位とした理由も併せて記入する。

卓越した技能の概要欄

P10 4. 「卓越した技能の概要」欄に記載の各項目を参照の上、記入する。ただし、一業で記入することが困難な場合は、調書（３）（４）まで記載して差し支えない。

推薦順位等欄

- ・選考対象者総数欄・・・推薦に当たり、被推薦者とならなかった者も含め選考の対象とした全ての人数を記入する。なお、厚生労働大臣への推薦に当たり、管轄の市区町村、商工関係機関又はその他の団体等に推薦を依頼した上で候補者の選定を行っている場合は、当該推薦人数を記載し、潜在的人数を記載するなど、過大な人数を計上しないように留意する。
- ・推薦総数欄・・・被推薦者の全部門における総数を記入する。
- ・推薦順位欄・・・被推薦者の全部門における推薦順位を記入する。

卓越した技能の概要

技能の概要	功績・貢献の概要	後進指導育成の概要	現役性
電子分野の試作品製作に長年従事して培った知識・技能を有しており、特に下記の技能に優れている。 1. 高信頼性を保障する組立技能 電子機器組立の「はんだ付け」技能と、振動を考慮した組立技能を修練し、その経験と研究から、信頼性の高い工法や工程を生み出したその技能は、ハイブリッド車や燃料電池車に搭載されている電子制御製品の試作でも基礎となっており、現在は幅広く標準化されている。 2. プリント板アートワーク技能 電子製品の試作では、小型軽量化が重要課題とされ、その完成度はプリント基板の部品実装密度に大きく左右される。その中でもプリント板のアートワーク作業において、これまで培った優れたノウハウをベースに創意工夫と研究を重ね、新たなアートワークの工法を生み出した。その技能は現在標準化され、多くの電子製品の試作に適用されている。	1. 宇宙産業機器への貢献 人工衛星搭載用の低振動モータと宇宙環境測定装置の製作において、米国航空宇宙局の要求基準をクリアし、製品化を実現した。この技能は、現在運用中の国際宇宙ステーションの実験モジュール内で使用する真空ポンプ用コントローラの製造にも用いられ、宇宙産業事業の拡大に貢献した。 2. モータースポーツ活動への貢献 エンジン性能の向上を目指したエンジン制御用コンピュータの試作と量産に取り組んだその結果、高性能な電子部品の組付品質の向上に貢献した。 現在、この工法は標準化され、試作品の組立工法として広く活用されることとなった。	1. 電気・電子関係の国家検定に実技指導員として活躍し、これまでに〇〇名を合格させ、〇〇県技能競技大会において1位入賞者〇〇名を輩出した。 2. 技能五輪大会出場者の指導を通じ、工場よりこれまでに〇〇人を全国大会に出場させた。大会では1位入賞〇〇名の成績を獲得させると共に〇〇年の国際大会でも1位入賞を果たさせる等、高い指導能力を発揮した。 3. 技能検定補佐員として〇〇年にわたり尽力し、〇〇年から検定委員として、検定（電子機器・配電盤組立）の運営に貢献し、現在も県技能検定専門委員として活躍している。	技能五輪選手を指導する後進の指導員や技能五輪選手の指導、現場管理に尽力している また、自ら電子機器組立工として、訓練課題の作製作業に日々従事している。 現在従事している業務内容とその内訳は次のとおりである。 就業時間〇時間 1. 新規課題の検討及び仕様書類の作製（〇時間） 2. 指導方法や訓練内容の検討及び改善（〇時間） 3. 職場内の巡視と指導員や選手への指導・教育（〇時間）

卓越した技能の概要欄

上記の記載は、参考に記載したものであり、記載の分量は例によらず具体的かつわかりやすく詳細に記入すること。